

平成14年度全国水生生物調査調査結果

1. 参加人数及び参加団体数

平成14年度の参加人数は過去最多の91,649人となった。

うち、一級河川¹は16,146人であり、その他の河川²は75,503人といずれも過去最多の参加人数であった。また、参加団体数は2,495団体で、うち一級河川は588団体であった。

参加団体別の参加人数は小学校での参加が最も多く、次いで中学校、観察会での参加が多い。

都道府県別の参加者数では福島県が最も多く、次いで岩手県、山形県となっている。なお、一級河川では北海道が最も多く2,014人であった。

参加者数の多い都道府県

順位	都道府県名	参加人数	一級河川再掲
1	福島	7,866	154
2	岩手	6,271	541
3	山形	5,736	218
4	愛知	5,728	875
5	岐阜	5,678	250

1 一級河川大臣管理区間（以下「一級河川」と言う）

2 一級河川都道府県管理区間及び二級河川等 1以外の河川（以下「その他の河川」と言う）

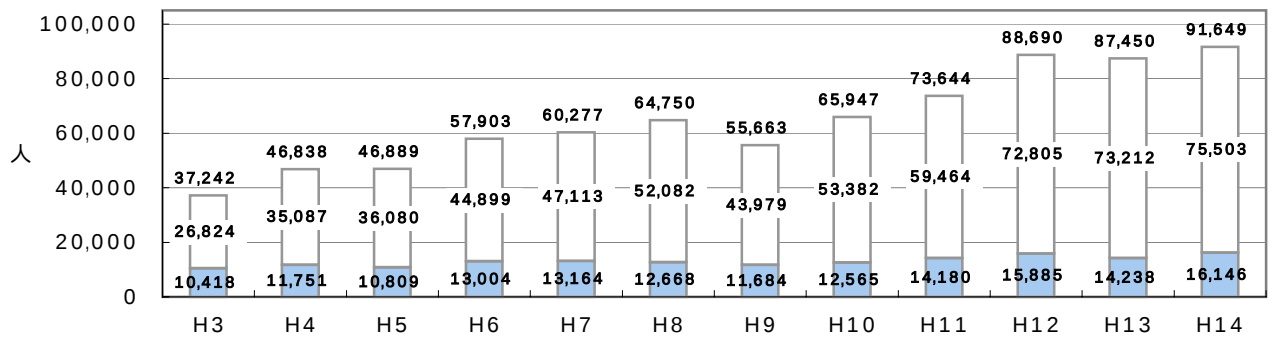


図-1 参加人数の推移

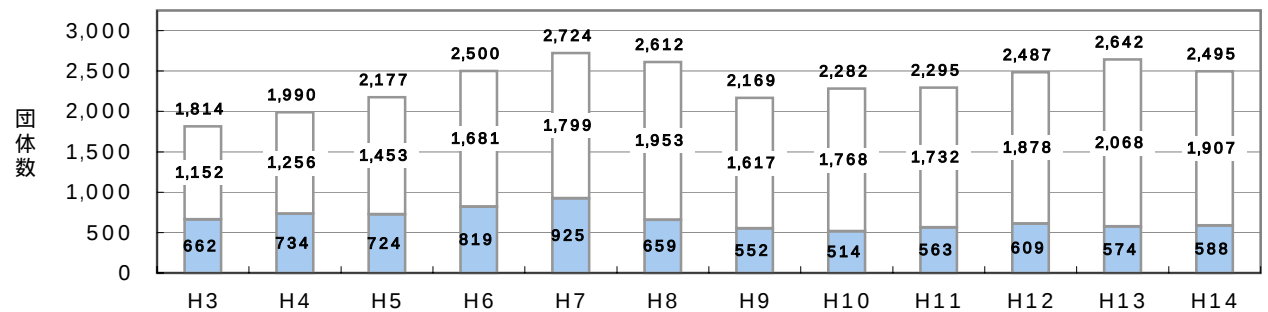
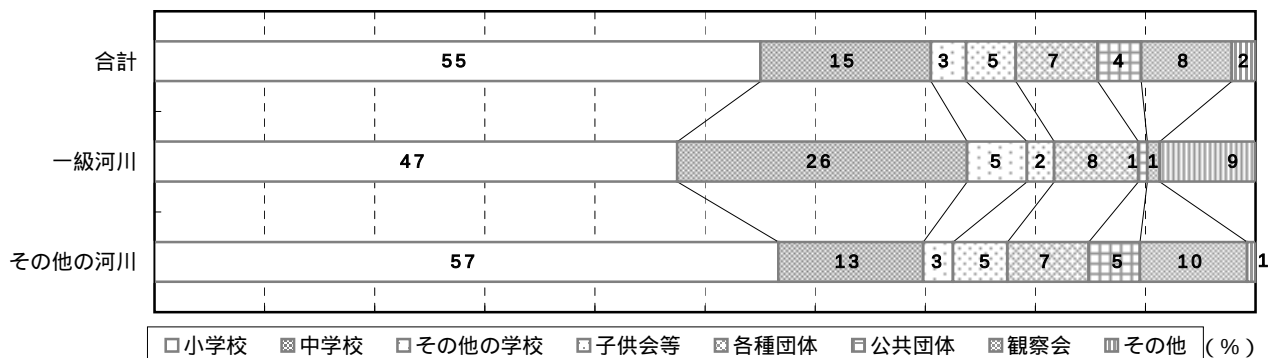


図-2 参加団体数の推移



四捨五入による端数処理のため内数の合計が100%にならないことがある。

図-3 参加人数の団体種類別構成比

2. 調査地点数

調査地点数は5,141地点であった。
うち、一級河川は615地点、その他の河川は4,526地点である。

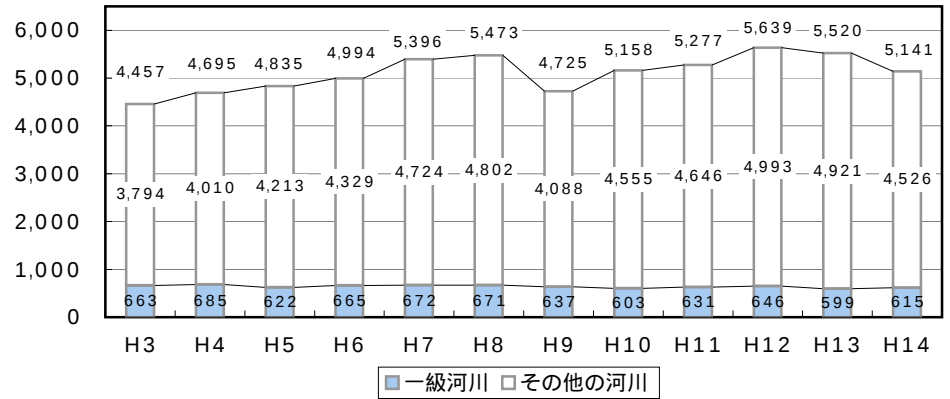


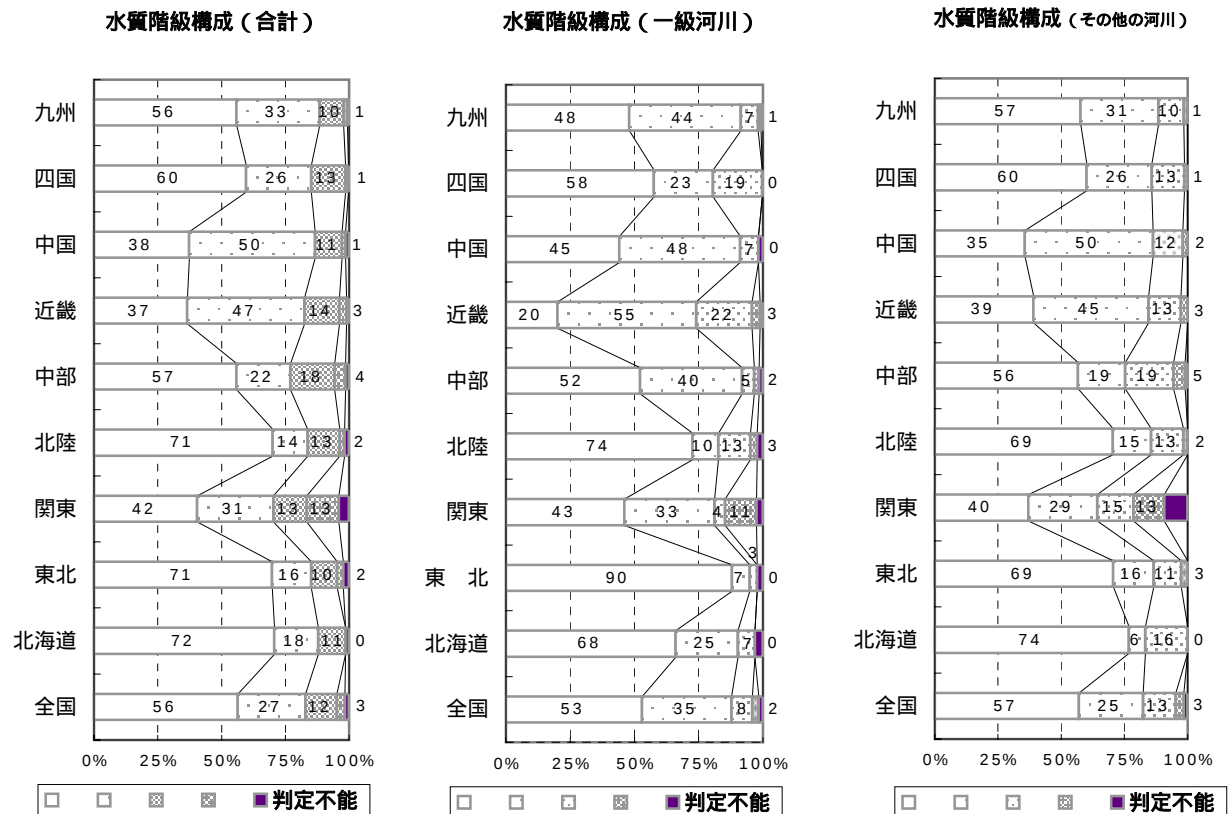
図-4 調査地点数の推移

3. 地域別水質階級構成（地域別の水質の状況）

本調査は、調査地点を参加者が任意に選定するため、我が国の河川の状態を正確に代表したものではない。しかし、多数の地点で調査されているため、全国の水質の状況を概括的に知ることができると思われる。

平成14年度は、全国で水質階級（きれいな水）と判定された地点が56%、（少しきたない水）が27%、（きたない水）が12%、（大変きたない水）が3%であった。

（きれいな水）の割合でみると関東、近畿、中国地方は50%未満であったが、北海道、東北、北陸地方は70%前後の高い値であった。各地方の一級河川とその他の河川の（きれいな水）の構成比は全般に似通った値となっているが、近畿地方はその他の河川の方が（きれいな水）の構成比が高く、東北地方では逆に一級河川の方が高いなど地域による差も生じている。

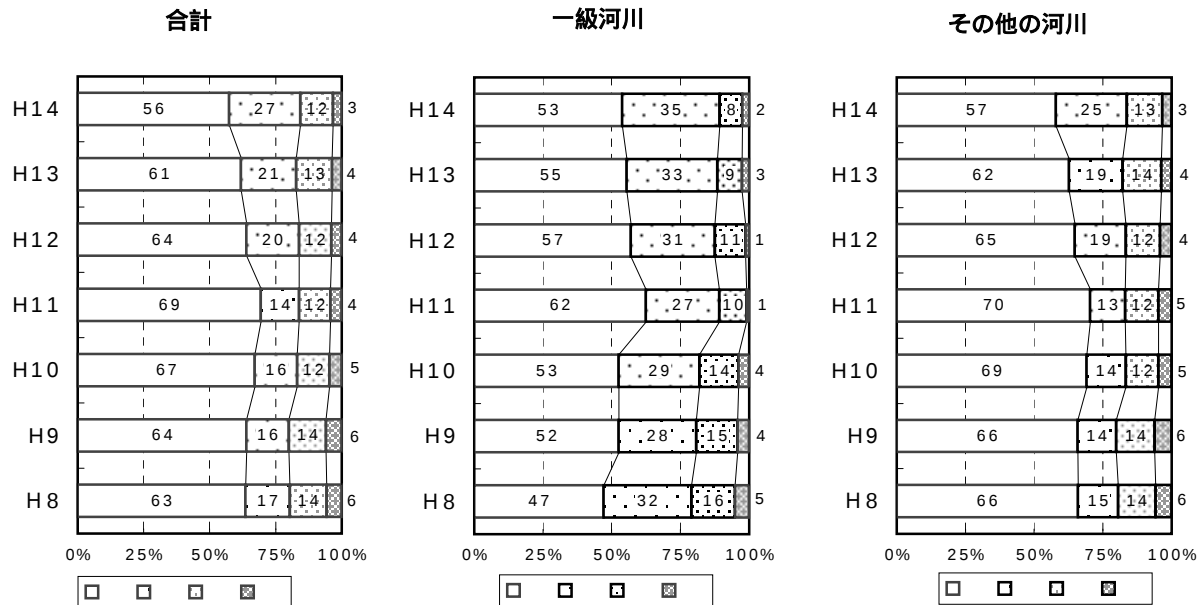


四捨五入による端数処理のため内数の合計が100%にならないことがある。

図-5 地域別水質階級構成比

4. 水質階級構成比の年次推移

全国の全調査地点の水質階級構成比を図6に示した。
平成12年以後、（きれいな水）に分類される地点の比率が減少している。平成14年度は（きれいな水）と判定された地点の割合が昨年に比べ5%減少し、（少しきかない水）と判定された地点が6%増加している。
一級河川、その他の河川ともに同様の傾向がみられるが、その他の河川において、（きれいな水）と判定された地点の割合が一級河川よりも大きく減少している。

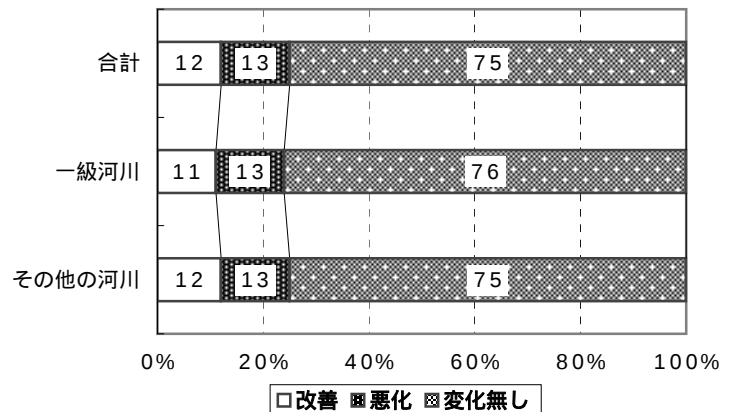


1 判定不能地点の扱い及び四捨五入による端数処理のため内数の合計が100%にならないことがある。
2 平成12年度から調査手法を変更しているため、平成12年度と平成11年度以前との厳密な比較はできない。

図-6 水質階級構成比の年次推移

5. 前年度（H13）との比較

前年度と同じ地点で調査された2,663地点について比較すると、12%の地点が改善、13%の地点が悪化、75%の地点が同じ水質階級であり、ほぼ横ばいの傾向にあった。



四捨五入による端数処理のため内数の合計が100%にならないことがある。

図-7 同一調査地点での昨年度との比較